

「岡屋考古館」定期開館へ

21日から 長年閉鎖から地域の文化遺産活用

21日から定期的開館する岡屋考古館



諏訪地方有志の大昔調査会

諏訪地方有志でつくり、地域の歴史や文化財の保護活動 日頃から、長年閉鎖されていた

定期開館は大昔調査会が管

「岡屋考古館」岡谷市本町1)を定期的に開館する。広く市民に岡屋考古館や収蔵されている岡屋遺跡からの出土品を知ってもらい、地域の文化遺産を活用したい考えた。岡屋考古館には岡屋遺跡(同市三沢)からの出土品数百点が収蔵されている。岡屋遺跡は1955(昭和30)年に林道工事の際に発見され、その後の発掘調査で縄文、弥生、古墳時代の住居跡10軒や石器、土器などが見つかった。当時は行政による史跡保護の機運が低かったため、民間による保存会が設立。岡屋考古館は市民の寄付により62(昭和37)年に建設された。その後、民間で管理されていたが維持が難しく、平成初期ごろから閉鎖されていた。

理。10月まで毎月第3日曜日の午前9時から正午まで開館し、同会会員が来館者に解説する。入館無料。大昔調査会の三上徹也副理事長は「岡屋考古館はおそらく日本一小さく、現存する考古館の建物としては最古かもしれない。埋蔵文化財を守ろうとした地域の人たちの気持ちが素晴らしい。今後も文化財保護、継承の機運を高めていきたい」と話している。考古館に関する問い合わせは三上さん(電話番号090・2204・2818)へ。(後藤八十晴)